

町政



遠藤 俊寛

スクールバスの導入

多額の経費を要するので今後検討課題

遠藤 未来を担う子ども達が安心して学べ、安全に生活できる環境作りは、町民みんなの願いだと思ふ。

本町においては、防犯ブザーの配布、防犯ステッカーを付けての車の運行、保護者による自主防犯パトロール等が行われているが、さらなる安心・安全のために、他の自治体の施策を本町でも実施できないか。

教育長 保護者への緊急連絡に携帯メールを活用する事は、保護者からメールアドレスを頂けたら技術的には可能なので今後、学校安全対策会議の場で検討したい。

緊急事態を伝える携帯端末を子ども達に持たせて危険を防止するシステムは、伯耆町という地域の実態にあったシステム

か今後十分検討して、もしそういう事が可能なら導入したい。

青色回転灯を装備した公用車でのパトロールというのは、教育委員会だけで判断する事ではないので、十分検討したい。

スクールバスの導入については、登下校時の児童生徒の安全を確保するためには、最善の方策だが、多額の経費を要する事業となるので、今後の検討課題である。

安全対策というのは、一週間とか、一ヶ月という短い期間なら、それぞれが無理をしながら対策を立てる事も可能だと思ふが、今後、社会情勢はさらに悪化すると予想されるので、何年もつづけられる対策を組み上げていく必要がある。

そのためには、まず町

民の方に、一人一人が安全ボランティアになって頂いて子ども達を見守って頂くといい、そういう態勢を作っていくのが大事と思っている、まず第一に取り組みたいのは、地域安全対策会議を立ち上げ、たくさんのボランティアを募りたい。

児童生徒の飲酒・喫煙の防止対策は

遠藤 未成年者の飲酒は、心身の発達や健康への害としての問題だけではなくタバコとともに薬物乱用の入り口とも指摘されています。保健所と連携をはかり、児童生徒に分

かりやすい飲酒・喫煙防止教育が必要ではないか。

教育長 飲酒喫煙・薬物乱用などの指導は、基本的には保健体育の授業で取り扱うようになっていく。

学校によっては、西部サポートセンターの少年警察補導員や鳥大医学部の専門医を講師に招き、喫煙教室などを特別に実施している。長期休業の前には、飲酒喫煙を含めて休み中の生活心得を作成し指導を行っている。

家庭に対しては、同様の生活心得をもとに、期末の個別の学級懇談会やPTA懇談会などの機会を捉えて協力をお願いしている。



通学パトロール